

自分らしく人生を終えるために元気なうちから備えたい……。そんな「終活」の裾野が広がってきた。墓や葬儀について考えるだけでなく、身の回りの物を「断捨離」する生前整理を始めたり、入院などの際の身元保証を第三者に頼んだりするおひとり様が増えてくる。人に迷惑をかけずに人生の最期を迎えたいという思いが垣間見える。

「あら、懐かしい。お父さんの遺品の写真だわ。こっちは孫からの手紙ね。目を細めるのは千葉県白井市に住む津々木多恵子さん（78）。傍らではそろいのポロシャツを着たスタッフが所狭しと動き回る。ある者は履物を箱に詰め、別の者は台所から戸棚運び出す。津々木さんは夫を1年半前に亡くした。築38年の家には夫婦と独立した息子たちの荷物が残った。「このままじゃいけない」と思っていた。息子たちの勧めもあり生前整理を決心した。請け負ったのは遺品・

おひとり様「終活」で安心

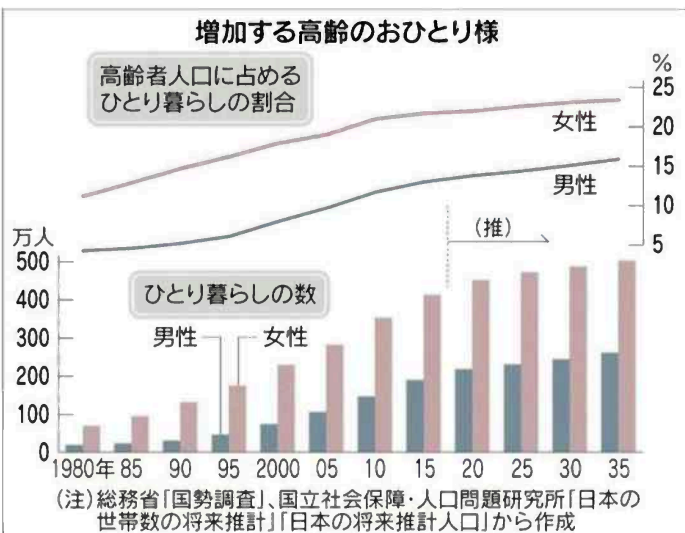
生前整理・孤独死保険：

生前整理を手掛けるリリーフ（兵庫県西宮市）。津々木さんが見守る中、朝9時に始まった作業は午後3時に終了した。処分品は2トトラックで5台分。費用は約36万円だった。リリーフが手掛ける片付けの件数は年間1500件。亡くなった親の遺品整理を子どもが頼むケースが多いが、「最近が高齢のおひとり様の生前整理が目立ってきた」と赤沢知宣おカタづけ事業部長は話す。「放置した



モノの要不要を指示しながら整理作業を見守る津々木さん（千葉県白井市）

元気なうちから、50～60代も



「おひとり様向」のサービスが広がる背景にはこのような事情がある。NPO法人きずな会の「名古屋市」は家族に代わって病気をケアしたり、頼りも少なくないという。単身の高齢者が増えつつある。かつて主流だった三世帯同居が減る一方、増加したのはおひとり暮らしだ。2015年には65歳以上の男性の13%、女性の22%を占めた。「いざという時に頼れる家族がいない」。おひとり様向のサービスをバックアップする。契約者が亡くなれば葬儀や納骨も必要。身元保証だけでなく、身元保証だけでなく、新しい金融商品も出てきた。その名も「孤独死保険」。賃貸住宅の加入するものもあり、東海上日動火災保険などが販売する。

「あなたパソコンやスマホがパソコンに入っている」といって死ねますか？」。う理由でセミナーに参加した会社先月26日に開かれた「デジタル社員」の女性(41)は、「データ終活セミナー」。講師の伊勢田を隠すだけでなく、毎月利用料を支払いながらネットの有料サービスなどを引き継いでおかないと死後、無駄に料金を払い続けると話した。

「デジタル遺品」にも目配り。伊勢田弁護士は「家族が困る遺品」について、自分の死後の取り扱いを考慮する活動だ。スマホなどは画面にロックを掛けていないものを分類する「棚卸し」をしてほしい」と呼びかけている。家族には見せたくない写真

スマホ写真やメールなど

「デジタル遺品」にも目配り

伊勢田弁護士は「家族が困る遺品」について、自分の死後の取り扱いを考慮する活動だ。スマホなどは画面にロックを掛けていないものを分類する「棚卸し」をしてほしい」と呼びかけている。家族には見せたくない写真